

NHK退職者 1527人賛同 代表が会見

NHK退職者
1527人賛同
代表が会見

NHKの退職者有志は21日、NHK経営委員会に対し、榑井勝人（もみいかつと）会長に辞任を勧告するか罷免するよう申し入れ、その後代表7人が記者会見して思いを表明しました。

退職者が集いNHKの問題に意見を発するのは初めて。かつての職場のトップに辞任を求める呼びかけ人と賛同者を合わせた有志が1527人へのぼるのも異例のことです。賛同者の思いをつづたはがきやメール、ファクスも多数寄せられています。

有志たちは辞任・罷免要求の理由として、「政府が右と言うのを左と言えない」など発言し、その姿勢を変えていない榑井氏が会長にとどまることは、政府・政治権力から独立した放送機関であるべきNHKにとって、重大な脅威となっていると指摘。さらにいまNHKで働く人たちが、会長の存在によって特別の困難に直面しているとしています。

申し入れ後に会見したのは、池田恵理子（元ディレクター）、大治浩之輔（元盛岡放送局長）、川崎泰資（元ボン支局長）、小池晴二（元美術デザイナー）、小中陽太郎（元ディレクター）、永田浩三（元プロデューサー）、村上信夫（元アナウンサー）の各氏。

会見では「申し入れの趣旨は」同じ職場で働いた者の共通の気持ちだ」（大治氏）、「やむにやまれぬ思いで行動をおこした。現役職員にOBの職員のOBの意見を伝えたい」（村上氏）、「職員はいま恥ずかしい思いをしている。NHKが“大本営発表”と揶揄（やゆ）されるのは許されないことだ」（永田氏）などの声があがりました。



NHK退職者有志は榑井会長の辞任か罷免を求めて会見するNHK全国退職者有志＝21日、東京都渋谷区

2014年8月22日（金）



再稼働は財界が推進 輸出も一体 ネットTVで吉井氏

日本共産党の吉井英勝・前衆院議員が23日、インターネットテレビの「デモクラTV本会議」に出演し、原発再稼働や原発輸出問題などについて語りました。司会の山田厚史氏は、2011年の事故以前から、東京電力福島第1原発の危険性や津波対策の問題を指摘してきたと吉井氏を紹介しました。

吉井氏は、安倍晋三首相が第1次政権時の2006年、原発の全電源喪失の危険性について指摘して地震や津波への対策を求めた自身の質問主意書に対して、「安全の確保に万全を期している」と答弁書で繰り返していたことを指摘。しかし、実際には対策が取られずに「最高責任者が責任をとっていない結果として福島第1原発事故が起きた」「まず不作為に責任を感じて真摯（しんし）な謝罪を国民にすべき。これが福島原発事故問題の出発点」と述べました。

また、再稼働を推進している原発利益共同体の中心は、電力、鉄鋼、メガバンクなど財界の中枢であると強調。彼らが狙っている原発輸出のために国内で原発の再稼働が必要となっていることを指摘し、「原発輸出と原発再稼働は一体不可分」といいました。

福島第1原発の問題では、東電の破綻処理など「根本の議論に立ち返らないと賠償問題も汚染水処理もなにもかも進まない。泥縄式でずるずるきている」と強調しました。

2014年8月24日（日）

安倍首相 国民の命よりゴルフ？ 広島災害 対応指示後もプレー

広島市で多数の人命を奪った土砂崩れ災害に対し安倍晋三首相は20日、「政府の総力を挙げて」災害対策に全力で取り組むことを関係機関に指示しましたが、指示直後に山梨県富士河口湖町のゴルフ場でプレーしていたことがわかりました。

広島市内では、前日から降り続いた記録的大雨のため複数の場所で土砂崩れが発生。20日午前6時過ぎには、計5人が行方不明となっていると報じられました。市は午前3時半に災害対策本部を設置。6時28分に広島県知事に対して自衛隊派遣を要請しました。

安倍首相は午前6時半に、（1）政府の総力を挙げて被災者の救命・救助などの災害応急対策に全力で取り組む（2）関係省庁が緊密に連携し、住民の避難支援に万全を期す（3）国民に大雨に関する情報提供を的確に行う―ことを関係機関に指示しました。

その後、首相が山梨県鳴沢村の別荘を離れたのは午前7時22分。4分後にはゴルフ場入りし、森喜朗元首相、萩生田光一自民党総裁特別補佐、日枝久フジテレビ会長や側近ら8人とプレーを開始しました。

別荘出発前から深刻な被害情報は刻々と流れ、7時ころには土砂に巻き込まれた2歳児が心肺停止との一報が市消防局から伝えられています。そんな時にゴルフ強行の判断。プレーを中断し、ゴルフ場を出たのは9時20分ごろ。その後、公用車で緊急帰京しました。この間、約2時間ゴルフ場にいたことになります。

首相指示を受けて古屋圭司防災担当相は関係省庁による対策会議の冒頭、「命が懸かっており1分1秒を争う。関係省庁、自衛隊、消防、警察はしっかりと連携をとって対応してほしい」と述べました。肝心の首相はゴルフ優先の対応。国民の命と安全を軽視するゆるみきった姿勢があらわになりました。

2014年8月21日（木）

続終戦記念日の新聞

前号で書くスペースがなく、その続きというところで「赤旗」の記事を紹介します。

主張では「『戦争をする国』繰り返さぬ決意」とあり、朝鮮半島や中国の一部を植民地としてアジア・太平洋の国々の侵略を拡大し続けた日本が国際的に孤立を深めついに敗北したことを認めた。自ら引き起こした侵略戦争の責任を認め、憲法9条で世界に先駆けてあらゆる戦争を放棄し、あらゆる戦力は持たないと決めた。戦争後70年近く「戦争する国」を阻止してきたのは国民。安倍政権と決別し、「戦争をする国」を許さないため力を尽くそう、と訴えています。

そして「日本の岐路今こそ声を」というのは長野県中川村の曾我村長。「安倍政権は集団的自衛権の行使を容認する閣議決定をしました。が、行使を容認する限り、私は積極的に自衛隊員募集をすることができない。行使すれば村の若者がアメリカの戦争の下働きをさせられことになります。もし亡くなるなんてことが起きてしまったら“募集に協力した自分のせいだ”と思わざるをえません」と責任を感じておられます。

本町は自衛官募集のチラシも置き、積極的に取り組んでいる様ですが、その姿勢に疑問を感じるのは私だけでしょうか？

田原本議会
議員
森 良子



子ども子育てニーズ調査

来年から幼稚園などの子育て制度が変わります。各市町村が「子ども子育て支援事業計画」を策定するため、「子ども子育て支援新制度に向けてのニーズ調査」を実施しています。

田原本町でも、調査結果報告書がまとめられています。その中身は、就学前の子どもを持つお母さんの四十二％が働いておられること。保育所が見つかればすぐにでも働きたいお母さんが十七％もおられること。保育園や幼稚園を利用する理由の第一は、「子どもの教育や発達を第一に考えて

いるため」です。保育園や幼稚園を八時間以上利用したい人は六十四％で、その内、幼稚園の預かり保育を利用したいと答えたお母さんは三十三％を超えていることが判明しました。

現在、本町では、保育園の待機児童がいて、来年も発生することが予想されています。また、幼稚園の預かり保育を行っていないません。この調査をもとに、本町が、どのような子ども子育て支援事業計画を決定し、実施されるのか楽しみです。

田原本議会

議員

吉田容工



福島第一原発事故

④

先週に続き伊東達也（浜通り医療生協理事長・原発問題住民運動全国連絡センター筆頭代表委員）さんの報告要旨を紹介します。

「地域社会が第一原発から距離で分断され、放射線量で分断され、津波被災と原発被害との対応の違いなど、県民の中に対立が持ち込まれている。さらに大事故の責任をだれも取らないことへに怒り、不満が沈殿している。こうした背景の下で起こっている事件として県内最大の24000人が避難しているいわき市内で『被災者帰れ』の落書きが市役所入口など4か所に書かれる事件が発生。仮設住宅内では駐車して

いた自家用車7台がフロントガラスを割られた事件。その後も仮設住宅内でロケット花火打ち上げ事件などが発生している。本来、みんなが力を合わせ困難を乗り越え、東電や政府などに解決を求めるのが当たり前なのに、被災者同士が対立し、不満・不安・怒りからくるウツフンが同じ被害者に向けられているのではない。県民の連帯を拒むものを乗り越えることが求められている。強制避難者への賠償の基本的な問題点は、生活を丸ごと奪われた被害者実態に目をふさぎ、生活再建にほど遠いものになっていることである。」

三宅町
池田年夫



備えへの警鐘

お盆前の台風通過後も列島各地で大雨による被害が続出ですね。とりわけ、広島市北部では各所で発生した土石流により、死者及び行方不明者が合わせて百名近くに上る甚大な被害が起こりました。ただちに関係各方面からの救助・捜索隊が現地入りし、懸命の活動が続けられる中、市民のボランティアも最終して撤去作業等、援助の手が津々浦々から差し伸べられています。

この度の豪雨災害で被害に遭われた皆さんには心からのお悔やみとお見舞いを申し上げます。

さて皆さん。この間の気象状況からして、実際、日本中何処に住んでいて

も、ゲリラ豪雨に襲われるリスクを追っていると言う事です。日ごろから、居住地域の避難場所の確認や出先で遭遇した際の家族との連絡の取り方、各自の身の処し方についてきちんと準備しとけと言う事です。ね。

豪雨時川西町では、その地形形状、破堤した時はおもろんの事、しなくても大和川の水位が下がるまでは町内河川の排水が出来ませんから、浸水被害は免れませんので、その際の家財道具の移動先や、水が引くまでの対応について、水、食糧、排泄処理等々についてそれぞれでの対処法を必ず備えて置く事です。ね。

川西町議会

議員

芝和也

